

# 消えゆくくらしのモノ

# 事典

岩崎書店編集部◎編



岩崎書店

# もくじ

## 1 つた 伝える

黒電話	12
アナログ電話回線	14
電話ボックス (公衆電話)	16
ファクシミリ (FAX)	18
ポケットベル	20
PHS	22
ガラケー (携帯電話)	24
アマチュア無線	26
駅の伝言板	28
情報ガイド誌	30
ペンパル	32
ラジカセ (ラジオカセットレコーダー)	34
カセットテープ	36
ブラウン管テレビ	38
ビデオデッキ	40
OHP (オーバーヘッドプロジェクター)	42



## 2 きろく 記録する

カーボン紙	48
青焼き	50
プリントゴッコ	52
インク消し	54
万年筆	55
砂消しゴム	56
赤青鉛筆	57
鉛筆けずり	58
ダイモ (ラベルライター)	60
ワープロ	62
フロッピー	64
8ミリビデオカメラ	66
レンズ付きフィルム	68
ペナント	70
状差し	72



# 3 住まう



電話カバー ..... 78

応接間 ..... 80

水差し (冠水びん) ..... 82

ナイトスタンド ..... 83

パタパタ時計 ..... 84

ファンシーケース ..... 86

花柄家電 ..... 88

上置式天火 ..... 90

缶切り ..... 92

巻き取りカギ ..... 94

栓抜き ..... 95

徳利 (燗徳利) ..... 96

二槽式洗濯機 ..... 98

お風呂ブザー ..... 100

安全器 (ヒューズ) ..... 102



# 4 学ぶ・遊ぶ

ブックバンド ..... 108

アルコールランプ ..... 110

洗眼水栓 ..... 112

先割れスプーン ..... 114

焼却炉 ..... 116

回旋塔 ..... 118

地球ゴマ ..... 120

平和鳥 ..... 122

シーモンキー ..... 124

ローラースケート ..... 126

エキスパンダー ..... 128

ゲイラカイト ..... 130

赤チン ..... 132

メリー ..... 134

カタカタ ..... 136



# 5 出かける



しよくどうしゃ  
食堂車 ..... 140

しん だい れっ しゃ  
寝台列車 (夜行列車) ..... 142

き しゃ ちゃ びん  
汽車茶瓶 ..... 144

きよう き おり ぼこ  
経木の折箱 ..... 146

ぱなま ぼう  
パナマ帽 ..... 148

でん しゃ はい ざら  
電車の灰皿 ..... 149

ゆう じん かい さつ  
有人改札 ..... 150

おれんじ かるど  
オレンジカード ..... 152

ろーど まっぷ (道路地図)  
ロードマップ (道路地図) ..... 154

で まえ き  
出前機 ..... 156

たく じょう  
卓上おみくじ機 ..... 158

めい きょく ぎゃく ちや  
名曲喫茶 ..... 160

えりべーたー ーがーる  
エレベーターガール ..... 162

おく じょう ゆう えん ち  
屋上遊園地 ..... 164



コラム コンピュータの歴史 ..... 44

ちをひろめる いん さつ の へし  
知を広める印刷の歴史 ..... 74

ぷらすチックの ゆくえ ..... 104

かねが なくなる!? ..... 166

はく ぶつ かん  
博物館ガイド ..... 168

さく いん ..... 171



# プリントゴッコ

プリントゴッコ

年賀状や暑中見舞いを手軽に作るための  
はがきサイズのかんたんな家庭用印刷機です。  
季節のあいさつ状をたいせつにした時代、  
日本中で愛された道具でした。

## 【ランプハウス】

フラッシュバルブをセットして  
本体に装着します。



1987年には年間72万台を出荷し、  
売上はピークに。  
2008年に生産終了するまでの売上台数は  
1050万台でした。

【本体】  
製版する上部と、  
台となる下部に  
分かれています。

## 孔版印刷の技術を利用

プリントゴッコにつかわれていたのは、「孔版印刷」の  
技術(→p.75)です。これは、スクリーン状の版に小  
さな穴を開けてインクを通す、というもの。写真  
用フラッシュバルブの熱でスクリーンを焼き  
つけ、インクをのせる方法で、かんた  
んに印刷できる道具が生まれました。

ランプハウスの内側



## 名前の由来 プリントゴッコ

プリントゴッコを開発した、理想科学工業の  
当時の社長羽山昇さんが「子どもたちが家で  
印刷ごっこを楽しむように」と、自ら名付け  
ました。この名前にはごっこ遊びこそ、生き  
る力や学びになるという信念が込められてい  
たのです。

## 【フラッシュバルブ(閃光電球)】

印刷原稿をマスターに  
焼きつけるためのランプです。

## 【マスター】

印刷の版になる原紙。  
熱で溶けるフィルムと  
スクリーンを圧着させて  
できています。



## 【インク】

製版したマスターに、  
インクをのせます。

## 【原稿用紙とペン】

専用のペンと原稿用紙。



## プリントゴッコのつかい方

- ①原稿を作る  
専用のペンと原稿用紙で手描  
きで作ってもよいし、付属の  
図案集を切りぬいてもつかえ  
ました。
- ②製版する  
本体の台の上に①の原稿を置き、  
マスターを本体にセットして、  
フラッシュランプの光を当てて  
焼きつけます。
- ③インクをのせる  
いったんマスターを本体からは  
ずし、好みの色のインクをのせ  
ます。何色でものせることがで  
きました。
- ④印刷する  
台の上にはがきを1枚ずつ置き、  
上部を持ってはさむようにべた  
んべたと印刷  
します。



## 【年賀状図案画集】

切りぬいてそのまま製版につかえたので、  
とてもべんりでした。

画像提供：理想科学工業

# 知を広める印刷の歴史

同じ記号をたくさん複製する方法は、古くは紀元前3万年のフランスの洞窟の手形ステンシルや、紀元前5000年のエジプトで円筒形の石に彫った文字をやわらかい粘土板に転写するなどがありましたが、インキをつかって紙などに印刷する技術が生まれたことにより、飛躍的に多くの人々が記録を共有することができるようになりました。

## 木版印刷 凸版印刷

◇740~750年ごろ (中国)

インドから仏教が伝わっていた唐(現・中国)で、仏像に墨をぬって紙に摺る方法(摺仏)が変化して、木版での印刷がはじまったと言われています。木版画と同じように、木の板の墨をのせたい部分以外を彫刻刀で彫る手法です。

◇770年 (日本)  
—現存する世界最古の印刷物「百万塔陀羅尼」

日本でも唐と同じく木版印刷で経典が作られるようになっていましたが、称徳天皇が、クーデターの平定後に、供養と平和祈願のために高さ20cmほどの小さな塔に経典を収めたものを百万基も作り、10の箇分寺に分けて奉納したことが『続日本書紀』に記録があり、現在も法隆寺に4万5000基以上揃っています。収められている幅5.4cmほどの巻紙の形の経典が、世界最古の印刷物とされています。中国や日本では、その後、活版印刷が生まれた後も、必要な文字数が多いこともあって、近代まで長らく木版印刷が栄えました。



百万塔。九州国立博物館蔵  
写真提供：国立博物館所蔵品総合検索システム



百万塔陀羅尼の内にある「自心印陀羅尼法」。  
東京国立博物館蔵

写真提供：国立博物館所蔵品総合検索システム

## 活版印刷 凸版印刷

◇11世紀 (中国)

—世界初の活字

北宋(現・中国)で、畢昇が陶器製の活字を発明しました。現在は、これが世界初の活字とされます。

◇13世紀 (韓国)

—銅活字

中国から活字が伝わった高麗(現・韓国)で、金属活字が生まれました。また、この銅活字は、豊臣秀吉の朝鮮出兵(1592年)の際、日本に持ちこまれ、日本の「古活字本」の発展につながりました。

◇1450年ごろ (ドイツ)  
—グーテンベルクの発明「活版印刷術」

神聖ローマ帝国(現・ドイツ)の金細工師ヨハネス・グーテンベルクが、鉛と錫とアンチモンの合金による金属活字と活版印刷機を発明しました。比較的低温で溶ける性質の合金を真鍮の型に入れて作った精度の高い活字と、ブドウの絞り機にヒントを得て、ネジで押圧するしくみの印刷機は、それまでの手工業とは比較にならない大量印刷を可能にしました。



グーテンベルクの印刷機  
(レプリカ)  
ドイツ博物館(ドイツ)

この「活版印刷術」は、「羅針盤」「火薬」とともに、後に「ルネサンス三大発明」と言われています。

## 凹版印刷 凹版印刷

◇15世紀中ごろ~18世紀 (西洋)

—エングレービング、エッチング、ドライポイント、メゾチント

西洋では、木版印刷が栄えたすぐ後に活版印刷が生まれ、木版印刷は一気に衰退し、入れ替わるように美術印刷としては凹版印刷が発展していきました。釜蓋板などを直接彫ったり、薬品で腐食させたりした、凹んだ部分にインキを入れ、表面のインキはふきとって紙に転写します。微細な線の表現が可能なので、肖像画やお札の印刷などに利用されました。

20世紀に登場したグラビア印刷は、この進化形です。

## 錦絵 (木版印刷)

◇17世紀末~18世紀 (日本)

16世紀にキリスト教の布教活動とともに西洋の活版印刷術が日本にも伝わりますが、1612年に江戸幕府がキリスト教の禁止令を出したため、日本では、あまり広まることなく、木版印刷が独自に発展しました。多色木版印刷による錦絵(浮世絵)は、葛飾北斎、安藤広重など、多くの絵師を生み出しました。



「ポッピンを吹く女」喜多川歌麿・画

## 石版印刷 (リトグラフ) 平版印刷

◇18世紀末 (西洋)

ボヘミア(現・チェコ)のアロイス・セネフェルダーが石版印刷を完成させました。平らな石灰石の板の上に、油性の薬剤で絵を描き、硝酸溶液をぬると、石灰石との化学反応で、水をはじく性質になるため、表面を水で濡らしてからインキをのせると、絵の部分だけインキがつくしくみです。板を彫らなくてよいのが画期的でした。

## 片仮名鉛活字 (活版印刷)

◇19世紀中ごろ (日本)

幕末に再び日本にグーテンベルクの鉛活字が伝わり、長崎に活字判独立所ができたのは1856年。その取扱係であった本木昌造が、片仮名活字作成に成功し、門弟が大坂と東京でそれぞれ活版製造所を設立するなど、日本の近代印刷の礎を築きました。

## 孔版印刷 孔版印刷

◇1880年 (アメリカ)

—トーマス・エジソンの発明「蝋字版」

版自体に穴をあけて紙の上に置き、版全体にインキをぬると穴の部分だけにインキが紙につくしくみの孔版印刷。エジソンの発明は、ろう原紙を金属のヤスリ盤の上から鉄筆で書いて作った型とスクリーンの上からインキをぬるもの。1887年にミメオグラフという商品として売り出されました。日本では、「ガリ版」とも呼ばれる印刷です。

「エジソン=ミメオグラフ」  
蝋字器、鉄筆、ヤスリ盤、原紙、  
修正液、インク、ローラー  
など一式を木箱に  
収めたセット  
(当時の広告の絵)



◇1905年 (アメリカ)

—サミュエル・シモンの発明「シルクスクリーン印刷」

日本の型友禅や捺染の技術をヒントに、型の材料にシルクの布をつかったのがはじまりです。蝋字版の原紙とスクリーンの機能が1つになった型です。

## オフセット印刷 ほぼ平版印刷

◇1905年 (アメリカ)

アメリカの石版印刷工場で、作業員が紙を入れずに印刷機を動かし、その後に紙を通すという失敗をしました。その際、裏面に印刷された文字が反転しているものの表面より精巧な仕上がりにあることに気づいた経営者のアイラ・ルーベルが、これをヒントに、ブランケット(中間シリンダー)に一旦転写させてから紙に印刷する技法を完成させました。版からインキを一旦はず(オフ)して紙にセットするので、オフセットと呼ばれます。この印刷方法が、現在の世界の印刷機の主流となっています。